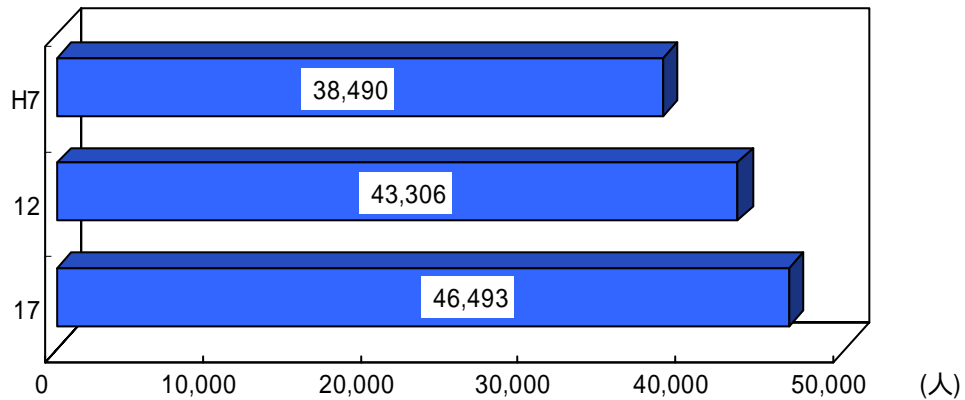

1章 文化環境の現状と課題

1 町の概況

(1) 人口と世帯

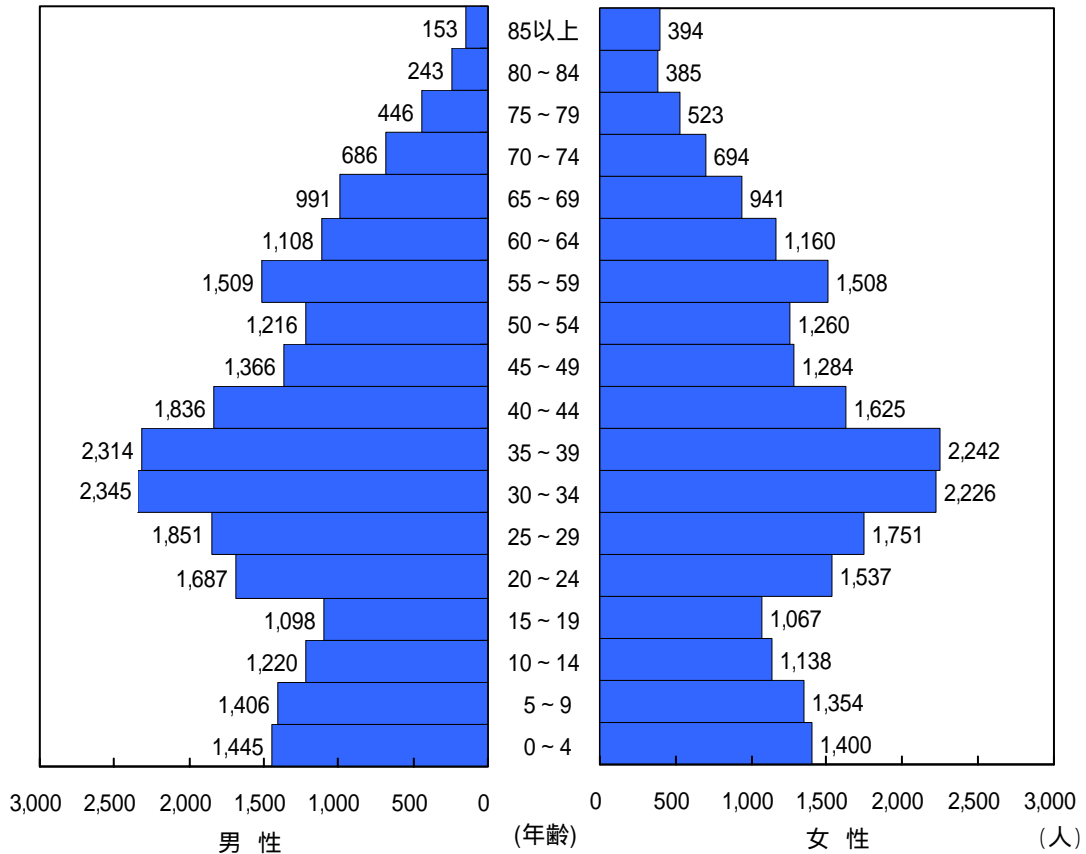
本町の人口は増加傾向で推移し、平成17年時点では46,493人です。年齢別人口をみると、30歳代の人が多くなっています。

人口の推移



資料：総務省「国勢調査」

年齢別人口（性・5歳刻み）



資料：長久手町「住民基本台帳・外国人登録」（平成19年3月1日現在）

在住外国人については、平成 17 年の時点で 634 人です。

一般世帯数¹は 20,011 世帯で、世帯数の増加率が人口の増加率を上回り、1 世帯あたりの人員数は減少傾向で推移して、平成 17 年は 2.29 人となっています。

一般世帯のうち 4 割強が、一人暮らしとなっています。

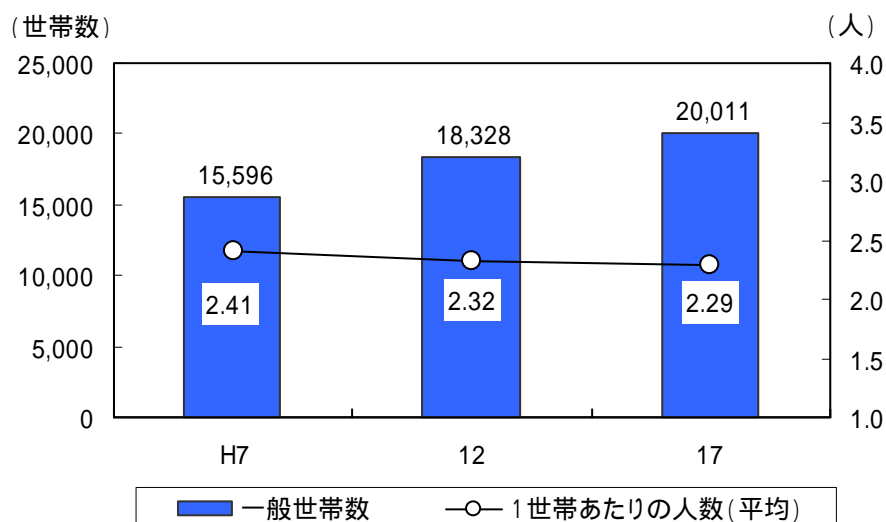
国籍別在住外国人

(人)

総数	韓国、朝鮮	ブラジル	中国	アメリカ	フィリピン	その他
634	145	110	76	40	27	236

資料：総務省「国勢調査」（平成 17 年）

1 世帯あたりの人数の推移



資料：総務省「国勢調査」

世帯人員数（一般世帯）

(%)

1 人	2 人	3 人	4 人	5 人	6 人以上
41.3	20.1	16.2	16.0	4.8	1.7

資料：総務省「国勢調査」（平成 17 年）

¹ 一般世帯は全世帯から施設等を引いた世帯数

(2) 町や産業等の概況

昼夜間人口比率は 1.15 で、昼間人口と夜間人口を上回っています。ただし、通勤者については、平成 12 年は 3,000 人の流出超でしたが、平成 17 年は愛・地球博の閉幕直後の 10 月調査ということもあり 2,738 人の流入超となっています。流出先・流入先ともに名古屋市が大半を占めています。

昼夜間人口

・昼夜間人口比率

昼夜間 人口比率	昼間人口 (人)	夜間人口 (人)
1.15	53,286	46,368

資料：総務省「国勢調査」(平成 17 年)

・通勤・通学者別流出・流入人口

(人)

	流出人口	流入人口	差(人)
通勤者	14,548	17,286	+ 2,738
通学者	2,343	6,622	+ 4,279

資料：総務省「国勢調査」(平成 17 年)

注：15 歳以上

・昼間の主な流出先(上位 5 市町村)

(人)

1位	2位	3位	4位	5位
名古屋市	日進市	瀬戸市	豊田市	尾張旭市
10,271	2,350	842	733	706

資料：総務省「国勢調査」(平成 17 年)

注：15 歳以上の通勤・通学者、市域は平成 17 年 10 月時点

・昼間の主な流入先(上位 5 市町村)

(人)

1位	2位	3位	4位	5位
名古屋市	瀬戸市	尾張旭市	日進市	春日井市
9,520	2,767	1,990	1,555	909

資料：総務省「国勢調査」(平成 17 年)

注：15 歳以上の通勤・通学者、市域は平成 17 年 10 月時点

町民の就業先について産業別にみると、サービス業や卸売・小売業など「第3次産業」が77.2%と大半を占めています。

住居の形態は、「共同住宅」が62.4%と「一戸建」(36.6%)を大幅に上回っています。また、住居の所有は「民営の借家」が47.8%で「持ち家」(46.4%)を上回っています。これらのことから、名古屋近郊のベッドタウンで、人口の流動が大きい本町の特徴が確認できます。

町民の就業している産業

(%)

第1次産業	第2次産業	第3次産業				分類不能
			卸売業・小売業	サービス業	その他	
0.9	19.3	77.2	23.2	17.6	36.4	2.5

資料：総務省「国勢調査」(平成17年)

住居

・住居の形態(住宅に住む一般世帯²)

(%)

一戸建	共同住宅	その他
36.6	62.4	1.1

資料：総務省「国勢調査」(平成17年)

・住居の所有(住宅に住む一般世帯)

(%)

持ち家	公営等の借家	民営の借家	その他
46.4	2.2	47.8	3.6

資料：総務省「国勢調査」(平成17年)

² 全世帯から、施設、商業施設に居住、間借り等を除く世帯

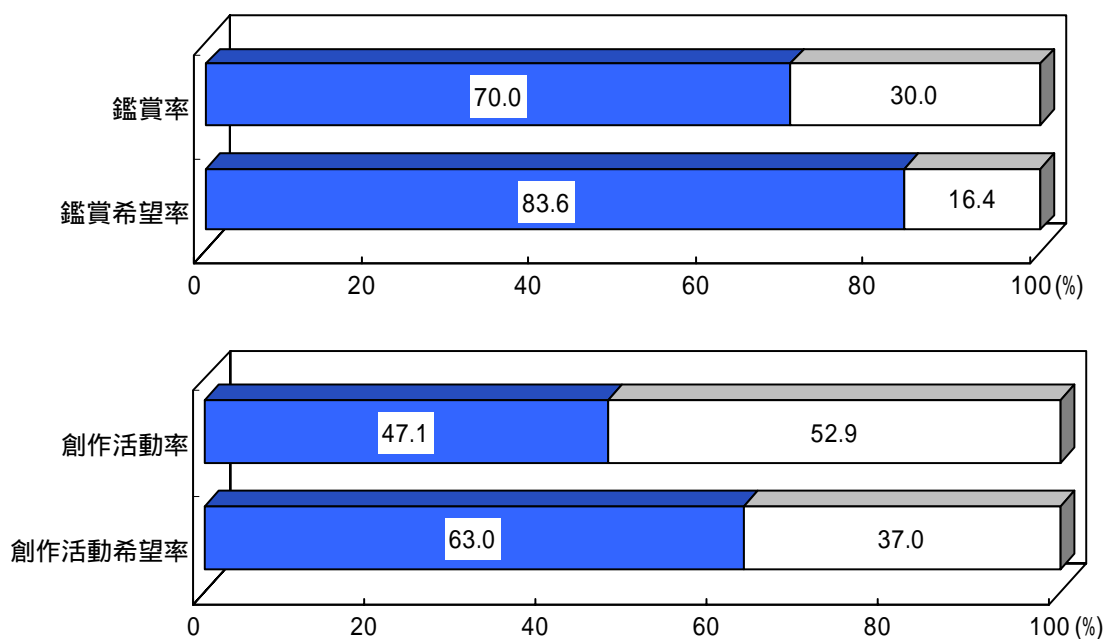
2 町の文化活動の現況

(1) 町民

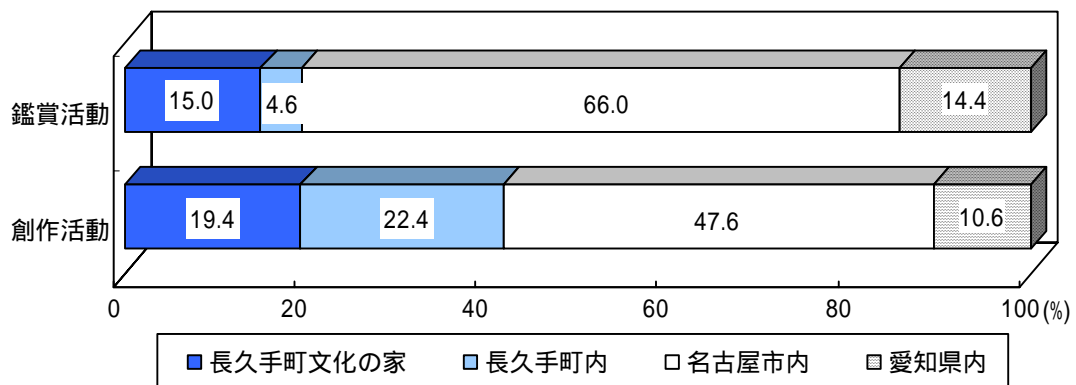
文化芸術作品をホール・美術館・映画館等で直接鑑賞することを希望する町民の割合（鑑賞希望率）は83.6%で、直近1年間で直接鑑賞した人の割合（直接鑑賞率）を上回っています。創作活動も同様に、希望率が現状を上回り文化活動のニーズが高いことが確認できます。

町民の文化活動の場所は、直接鑑賞活動、創作活動ともに、「名古屋市内」の割合が高く、名古屋市との役割分担を前提に町の文化行政を考える必要があります。

町民の鑑賞・創作の現状と希望



文化活動の場所



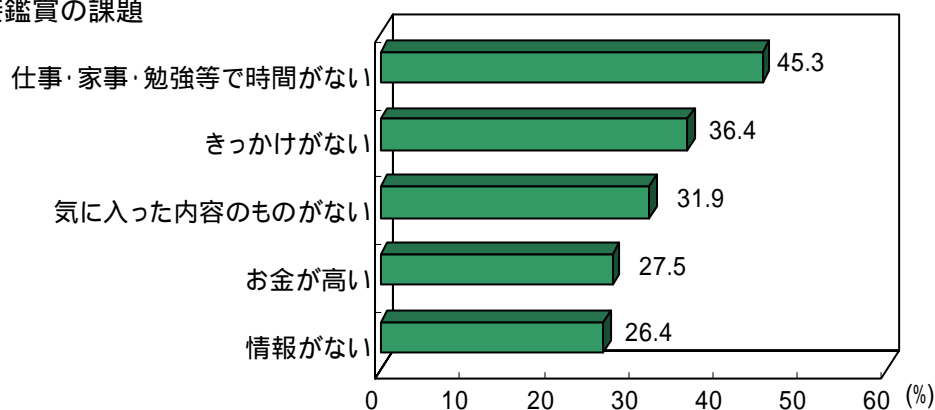
資料：長久手町「町民アンケート」（平成18年）

注：鑑賞率は、直近1年間に、ホール・美術館・映画館等で鑑賞した人の割合
 創作活動率は、直近1年間に文化芸術の練習・創作・発表等をした人の割合

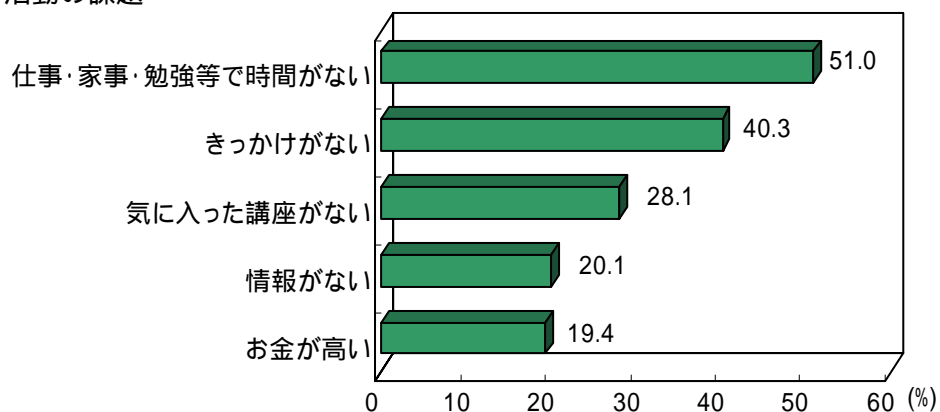
町民アンケートの調査結果をみると、町民の直接鑑賞・創作活動ともに課題として、「仕事・家事・勉強等で時間がない」「きっかけがない」「気に入った内容のもの(講座)がない」の順に高く、身近なところで魅力ある機会の提供を求めています。

文化活動の課題

・直接鑑賞の課題



・創作活動の課題



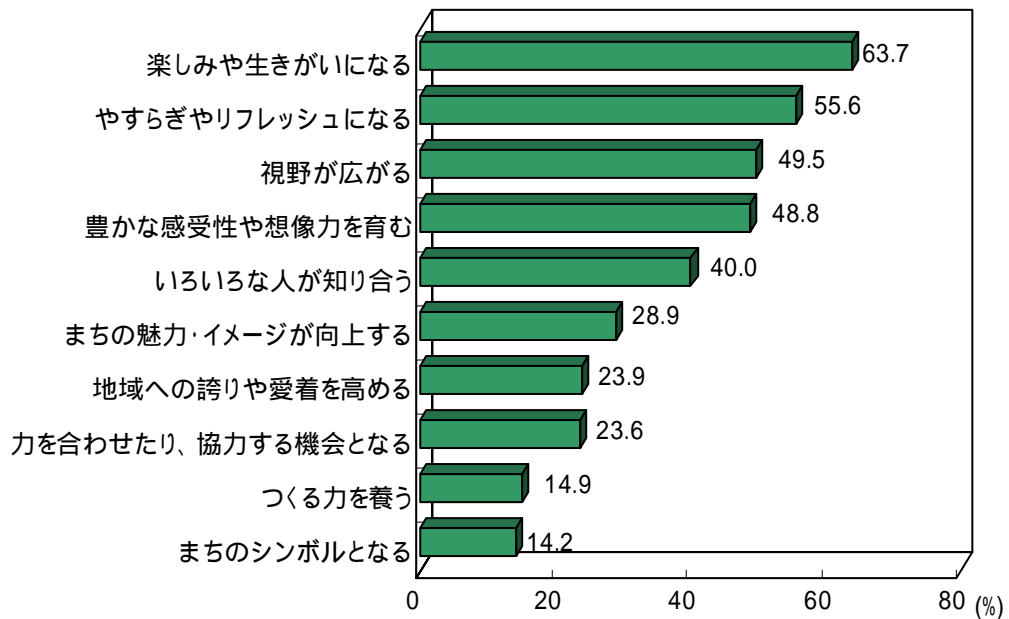
資料：長久手町「町民アンケート」(平成18年)

注：上位5項目を掲載

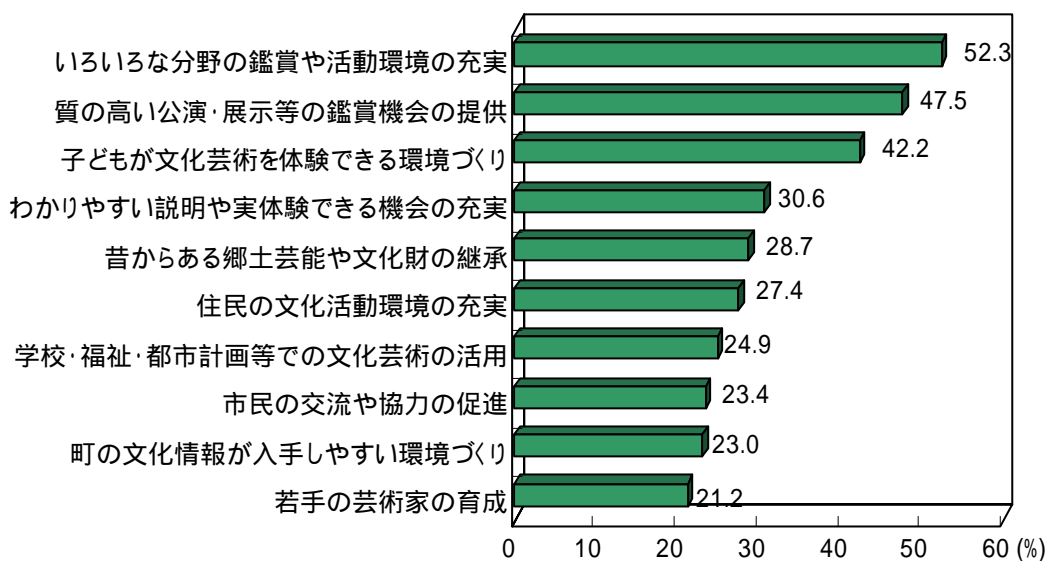
文化は、楽しみ、リフレッシュ、感受性の育成、まちの魅力の向上、地域への愛着の向上など、住民や地域へさまざまな効果があると町民は考えています。

町が取り組むべきこととして、いろいろな分野の鑑賞や活動環境の充実、質の高い公演・展示等の鑑賞機会の提供、子どもが文化芸術を体験できる環境づくりをはじめ、さまざまな取り組みが期待されています。

文化の住民や地域への効果



町が取り組むべきこと

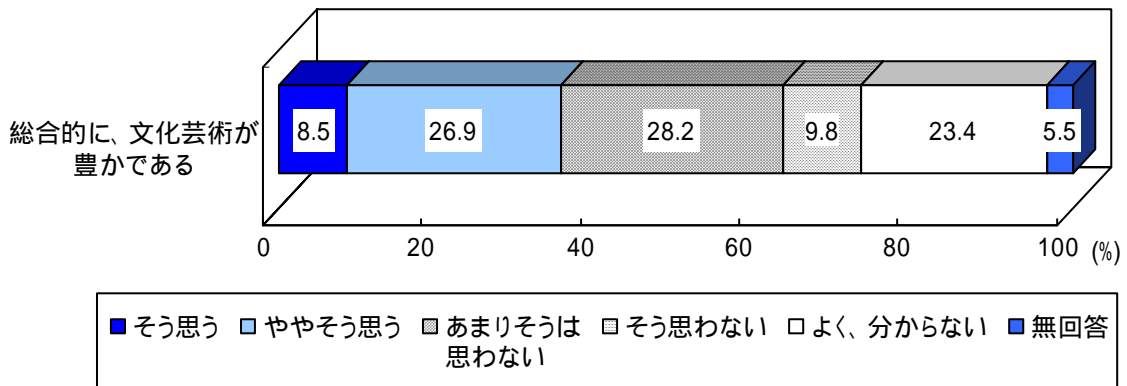


資料：長久手町「町民アンケート」（平成 18 年）

注：上位 10 項目を掲載

本町の文化芸術について豊かであるか尋ねたところ、「ややそう思う」「あまりそうは思わない」「よく、分からない」の回答が多く、一層振興を図っていく必要があります。

長久手町の文化環境



資料：長久手町「町民アンケート」（平成 18 年）

(2) 芸術家・文化団体

町内では、現在 500 人近くの文芸家・芸術家・芸能家が就業しています。また、文化協会には、書道・絵画、民踊など 38 団体、525 名が加盟しています。

文芸家・芸術家・芸能家

	H7	H12
文芸家・芸術家・芸能家数(人)	450	461

資料：総務省「国勢調査」

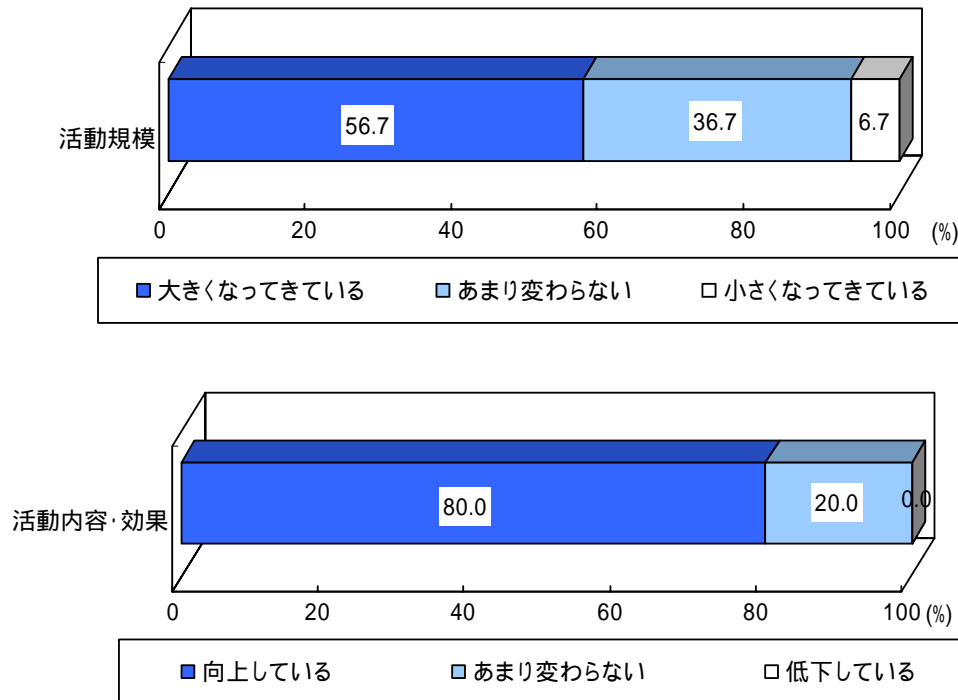
文化団体数（長久手町文化協会）

分野	団体数	人数	分野	団体数	人数
文芸	2	69	民謡・カラオケ	3	60
書道・絵画	6	111	舞踊	2	22
工芸	2	18	詩吟	2	21
自然文化創作	1	9	郷土芸能	1	22
茶華道	3	24	着付け	1	16
大正琴	2	24	保健体育	1	23
民踊	11	86	合唱	1	20
合計	38 団体	525 名			

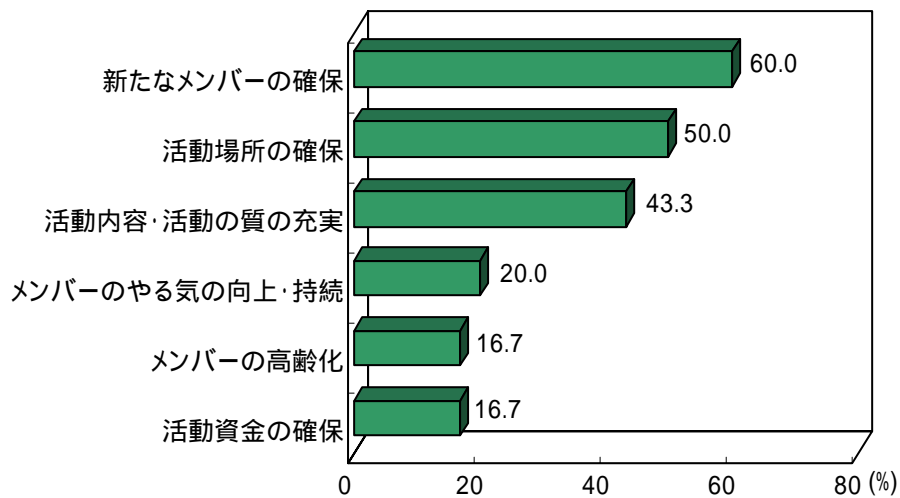
資料：長久手町文化協会（平成 18 年 5 月現在）

文化の家の利用団体等の活動状況をみると、活動内容・効果が向上している団体が8割を占めており、順調な模様です。活動上の課題としては、「新たなメンバーの確保」「活動場所の確保」「活動内容・活動の質の充実」など、さまざまなことがあがっています。

この5年間の文化活動の動向（文化の家利用団体等）



活動上の課題（文化の家利用団体等）



資料：長久手町「文化の家利用団体等アンケート」（平成18年）

(3) 文化事業、文化施設等

本町では、この10年間に文化の家、福祉の家、まちづくりセンター、平成こども塾をはじめ、公共施設の整備を進めており、文化の家を芸術振興拠点と位置づけています。

また、美術館・博物館については、民間や愛知県が運営する施設が立地しています。

主な施設

・町内の主な公共施設

施設名	施設概要
文化の家	場 所 大字長湫字野田農 94 番地 1 開設年次 1998 年 7 月 特 徴 文化・情報の発信基地として開館。「森のホール」「風のホール」と美術室や食文化室等からなる「アートリビング」で構成。ホールでは、演劇やコンサート、アートリビングではサークル活動やさまざまな講座が行われています。
公民館	場 所 大字岩作字城内の 60 番地 1 長久手町役場西庁舎内 開設年次 1974 年 7 月 特 徴 町民、地域の文化団体、行政関連等さまざまな人が会議、練習など、多様な用途に利用。
中央図書館	場 所 大字長湫字野田農 106 番地 1 開設年次 1992 年 6 月 特 徴 約 17 万冊の蔵書のほか、CD や DVD 等も収蔵。2 階には AV ルームやギャラリーを設置。
交流プラザ	場 所 大字岩作字東中 1 番地 3 開設年次 1996 年 2 月 特 徴 各種会合など多目的に利用。20～80 人が利用できる多目的室のほか、大・中・小、3 つの会議室を設置。
福祉の家	場 所 大字前熊字下田 171 番地 開設年次 2002 年 12 月 特 徴 健康、福祉、交流をキーワードに建設された、「福祉エリア」と「温泉エリア」からなる多目的施設。
まちづくりセンター	場 所 武蔵塚 101 番地 3 開設年次 2005 年 4 月 特 徴 町民のまちづくりを目的とした活動、交流の拠点となる施設として開設。交流スペース、集会室、活動室等を設置。
平成こども塾	場 所 大字熊張字福井 1590 番地 50 開設年次 2006 年 4 月 特 徴 国産の木材をふんだんに使い、子ども達が農体験や自然環境教育を行うための施設。住民や専門家によるプログラムを実施。

・美術館・博物館等

施設名	施設概要
名都美術館	場 所 杵ヶ池 301 番地 開設年次 1987 年 1 月 運営主体 財団法人林美術財団 特 徴 上村松園、鍋木清方、伊東深水の美人画をはじめ、百数十点の近代日本画を展示。この他に年間で 6、7 回の特別展、企画展を実施。
トヨタ博物館	場 所 大字長湫字横道 41 番地 100 開設年次 1989 年 4 月 運営主体 トヨタ自動車株式会社 特 徴 ガソリン自動車誕生から 100 年間をとらえ、自動車の文化・技術の発展の歴史を紹介。
愛知県立芸術大学 法隆寺金堂壁画模写展示館	場 所 大字岩作字三ヶ峯 1 番地 1 愛知県立芸術大学内 開設年次 1989 年 運営主体 愛知県立芸術大学 特 徴 日本画の教授陣らの手による奈良法隆寺金堂の壁画の模写を展示。

文化の家で芸術関連事業、社会教育課で生涯学習関連の事業を主に実施しています。文化の家の年間来場者数は延べで 50 万人を超え、町内外の人の活動・交流拠点であることがうかがえます。

文化施設・イベント等の年間来場者数

施設・イベント	来場者数等
文化の家	527,990 人
中央図書館	322,765 人
トヨタ博物館	262,785 人
名都美術館	30,318 人
長久手納涼まつり	47,000 人
ながくて町民まつり	20,000 人
古戦場桜まつり	8,000 人

資料：長久手町（文化の家、中央図書館：平成 17 年度）

愛知県「愛知県観光レクリエーション利用者統計」（上記の他：平成 17 年）

文化関連事業

事業(主な所管)	事業概要
アトリビング講座 (文化の家)	住民の文化創造活動を幅広くサポートし、受講者同士の交流の促進、良いコミュニティ作りを図る、舞台芸術、美術、生活文化に関する各種講座です。
生涯学習講座(教育委員会社会教育課等)	町内に立地する大学等で、町内の公共施設や大学等で生涯学習講座が開かれており、芸術・文化、生活分野についても、文化の家を中心に、福祉の家、平成こども塾丸太の家、公民館等で開催しています。
生涯学習講師人材バンクリスト(教育委員会社会教育課)	各種の技能・資格をもつ方や、自分の知識・特技を地域の生涯学習活動に活かしたいという熱意のある方を公募のうえ講師として登録し、一覧表にして閲覧できるようにしています。
音楽デリバリー (文化の家)	学校、児童館、福祉施設など町内で希望する各施設に出向き、参加者と交流しながらコンサート等を開催します。
舞台公演(文化の家)	音楽、演劇、舞踊等の舞台公演を年間約 50 ステージ開催しています。
展示会(文化の家)	絵画コンクール、県立芸大との提携展、企画展等を年間 10 本程度実施しています。
長久手オペラ声楽コンクール(文化の家)	オペラ歌手または声楽家を目指す新進声楽家を対象に、未来を担う優れた人材を発掘し、町の音楽振興を図るとともに、オペラ界の活性化と国際交流の発展を図ります。
地域演劇祭(文化の家)	公立文化施設で創造された作品や、地域で活躍する劇団が発表するとともに、交流・意見交換をする演劇祭を開催しています。
町合唱団、町劇団の活動支援(文化の家)	ニューセンチュリーコーラス Nagakute、座 NAGAKUTE の活動を支援しています。
文化の家フェスティバル(文化の家)	舞台、パフォーマンス、展示の各部門にわかれ、日頃の成果を発表します。

(4) 教育機関・文化財等

町内には、4つの大学、2つの高等学校をはじめ、13の学校が立地しています。芸術関連としては、美術学部と音楽学部を有する愛知県立芸術大学があります。

本町は、高度経済成長期以降に都市基盤が整備された住宅都市の特色を持ちながら、一方で棒の手、オマント・警固祭り³等の民俗文化も継承されています。歴史を紐解くと、小牧・長久手の戦いの地として古戦場が国指定の史跡となり、ベルギーのワーターロー市と姉妹都市を結んでいます。

学校数

小学校	中学校	高等学校*1	大学*2
5	2	2	4

*1 長久手高等学校、栄徳高等学校

*2 愛知県立大学、愛知県立芸術大学、愛知医科大学、愛知淑徳大学

長久手町の歴史

本町は緑豊かな丘陵地で、長久手古戦場をはじめ、オマント・警固祭り、棒の手等、数多くの有形・無形の文化遺産が受け継がれてきています。

一方、1961（昭和36）年の愛知用水の完成、1969（昭和44）年の地下鉄藤が丘駅までの延伸、1970（昭和45）年のグリーンロードの開通、愛知青少年公園の開園、東名高速道路の開通など、高度成長期に相次いで都市基盤が整備されました。これを機に、名古屋市のベッドタウンとして土地区画整理事業による宅地開発を主体とした急速な都市化が進みました。

「2005年日本国際博覧会（愛・地球博）」は、国内外を始め世界各国から2,200万余の人々が来場し、万博会場となった本町の名前は、全国・全世界に発信されるとともに東部丘陵線（リニモ）、名古屋瀬戸道路が整備され、都市基盤が一層充実しました。また、万博の理念である「自然の叡智」の継承に向けて、「田園バレー事業」の展開など、便利な都市的発展と少し足を伸ばせばすぐに自然があるゆとりのあるまちづくりを進めています。

³ 標具（ダシ）と呼ばれる札や御幣を立て、豪華な馬具で飾った馬を社寺へ奉獻すること。本町のオマントは、馬を警固する棒の手隊と火縄銃を持った鉄砲隊が加わり「警固祭り」と呼ばれている。

文化財

・国指定

種別	名称	所在地	特徴
史跡	長久手古戦場	武蔵塚 205 外	徳川家康と羽柴（豊臣）秀吉が戦った「小牧・長久手の戦い」（天正 12 年・1584）。その跡地には、戦いで亡くなった者の塚が築かれています。昭和 14 年、国の史跡に指定。

・県指定

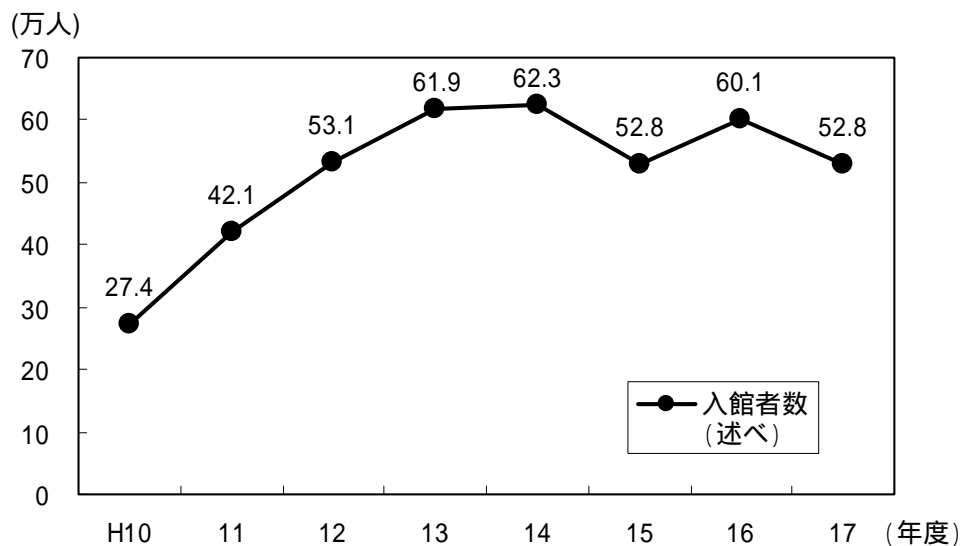
種別	名称	所在地	特徴
無形民俗	長久手の棒の手	長久手町全域	棒や鎌を使用して「あ・うん」の呼吸を計ってお互いが打ち合う伝統の技です。町内には 4 流派あります。
無形民俗	岩作の「オマント」	大字岩作地内	馬の塔（オマント）は、馬を神社に奉納する祭礼行事で、古くから行われている豊年祭りです。馬を守る警固隊による火縄銃の発砲や人と馬が一体となって疾走する姿など、大変迫力のある祭りです。
無形民俗	長湫の警固祭り	大字長湫地内	

3 文化の家

(1) 利用状況

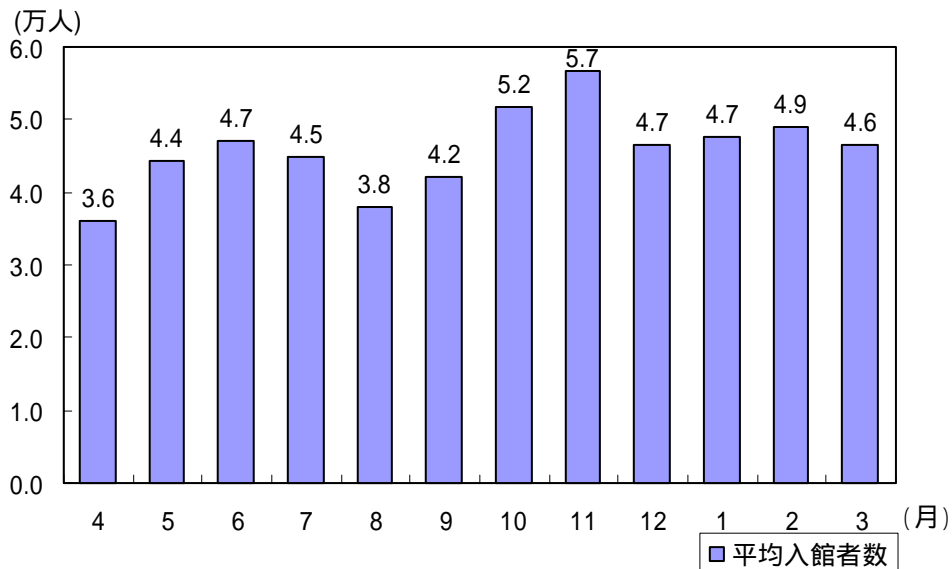
開館後 3 年間、入館数が増加し、その後、50～60 万人強と、横ばいで推移しています。

年度別入館状況



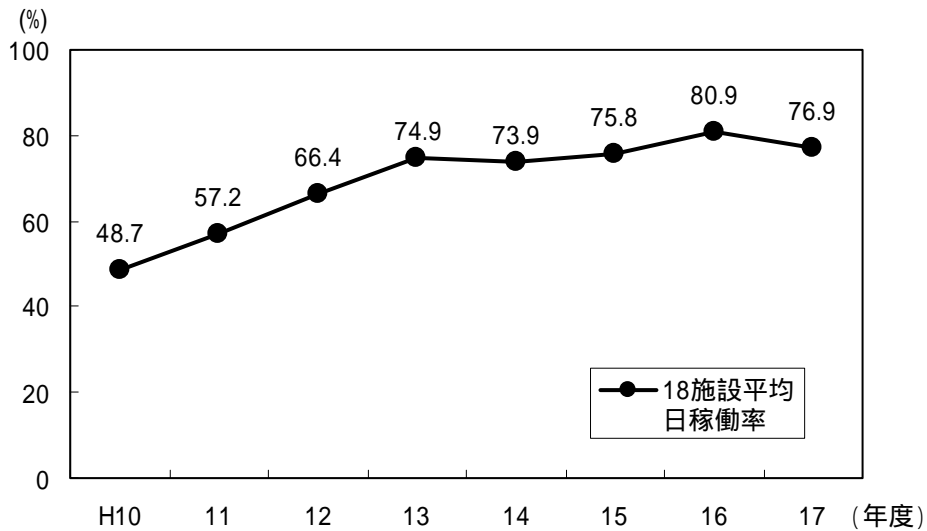
月別では、10～11月の利用者が特に多く、4月と8月の利用者がやや少なくなっています。文化の家の利用状況について、18施設平均の日稼働率は上昇傾向で推移し、平成16年度は8割を超えました。

月別の利用状況



注：平成11～17年度の平均

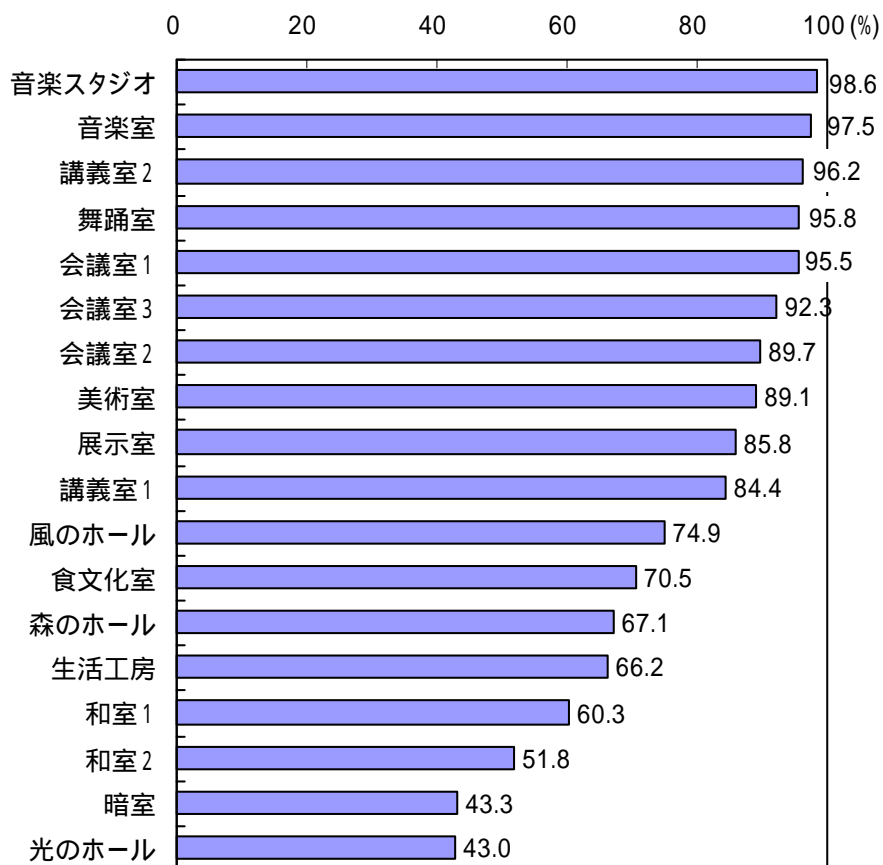
施設の利用状況



ただし、音楽スタジオ、会議室等では9割を超える一方、光のホール、和室等では5割程度で、施設によりやや違いが見られます。

利用の登録件数は、年々大幅に増加しており、新たな利用者が増えていることがうかがわれます。町民はもとより、名古屋市をはじめ市外の利用者も多くなっています。

施設の利用状況



注：平成15～17年度、3年平均

■ 日稼働率

登録件数の推移

(件)

住所\年度	H10	11	12	13	14	15	16	17
長久手町	287	451	691	846	997	1,158	1,312	1,462
名古屋市	102	338	369	492	611	753	868	1,003
愛知県	124	291	424	509	622	733	846	940
その他	9	25	31	41	53	73	94	103
登録件数計	522	1,105	1,515	1,888	2,283	2,717	3,120	3,508

(2) 自主事業

多くの事業の本数は、ほぼ横ばい、もしくは、やや増加で推移しています。音楽デリバリー、ギャラリーコンサート等は、当初事業から追加して実施されています。

入場者数・参加者数については、ほぼ横ばいで推移してきましたが、愛・地球博の関連事業があった平成17年度が大幅に増えています。

事業数の推移

事業\年度	(本)							
	H10	11	12	13	14	15	16	17
舞台系事業	31	39	38	35	37	37	38	35
展示系事業	2	6	7	12	9	11	14	10
映像鑑賞会	22	29	24	15	13	12	12	13
音楽デリバリー				8	8	8	9	9
ギャラリーコンサート				2	4	4	4	1
音楽・演劇等の関連企画					7	17	11	5
シンポジウム							1	2
合計(公演系)	55	74	69	72	78	89	89	75
アトリビング講座(長期)	25	30	30	27	36	31	34	34
アトリビング講座(短期)	2		8	8	8	9	9	13
合計(アトリビング)	27	30	38	35	44	40	43	47

注：音楽・演劇等の関連企画に「ギャラリー・デ・パフォーマンス」を含みます

自主事業の入場者数・参加者数の推移

事業\年度	(人)							
	H10	11	12	13	14	15	16	17
舞台系事業	12,270	12,840	13,365	15,466	12,940	13,194	14,166	22,639
展示系事業	(不明)	4,061	4,098	5,668	4,753	6,467	6,213	10,849
映像鑑賞会	737	520	739	1,390	1,192	1,040	738	1,461
ギャラリーコンサート				250	280	210	390	1,328
アトリビング講座	502	515	616	549	750	737	728	853
合計	13,509	17,936	18,818	23,323	19,915	21,648	22,235	37,130

舞台系事業のジャンル別では、音楽系の本数が最も多く、演劇系が次いで多くなっています。

舞台系事業のジャンル別本数

(本)

ジャンル\年度	H15	16	17
音楽系	15	16	19
演劇系	15	12	8
伝統芸能	2	2	1
舞踊	1	2	3
フェスティバル等	4	6	4
合計	37	38	35

注：オペラは音楽系に含みます

(3) 運営体制

職員数、創造スタッフ、文化の家フレンズ(個人)は、ほぼ横ばいで推移しています。

運営スタッフ、会員数等の推移

(人、団体)

	H10	11	12	13	14	15	16	17
職員数	15	15	15	15	15	15	15	16
創造スタッフ	7	7	7	6	6	6	6	6
文化の家フレンズ(個人)	437	401	336	529	381	478	457	381
(法人)	3	1	1	1	2	1	1	2

注：17年度は、職員数に館長を加えています。

4 文化行政の成果と課題

平成10年3月の文化マスタープラン計画策定以降のまちの文化行政について、成果と課題を整理します。

(1) 成果

住民の文化活動ができる公共施設の増加

まちの文化活動の拠点である文化の家が平成10年7月に開館したのを始め、福祉の家、平成こども塾など公共施設が相次いで整備され、平成19年度には田園バレー交流施設、青少年児童施設の開館が予定されており、住民がさまざまなタイプの文化活動が

できる公共施設が増加しています。

住民が文化活動をする機会の充実

文化の家で、解説や体験を伴った公演・展示の実施、福祉施設や学校等における音楽デリバリーの実施、各種美術展の開催など、多様な鑑賞機会の提供に取り組んでいます。また、アトリビング講座や教育委員会の生涯学習講座など、住民の学習機会の充実にも取り組んでいます。さらに、新たに整備された各公共施設での貸し館や自主事業が行われており、住民が文化活動をする機会が充実しています。

芸術性の高い事業、芸術性を高める事業の展開

オペラ声楽コンクールの継続的な開催、長久手オペラ公演の開催、町合唱団など「オペラやクラシック音楽」を軸とした事業や、地域演劇祭の開催、日本劇作家大会の誘致、各種演劇公演、町劇団など「演劇」を軸とした事業に取り組んできました。このように、オペラやクラシック音楽、演劇を特色として、地域の芸術を牽引する芸術性の高い事業、芸術性を高める事業を展開しています。

住民参加を受け止める体制づくり

文化の家におけるフレンズボランティアスタッフや事業倶楽部等の住民参加型の事業、平成こども塾の企画運営ボランティア、各種委員会への公募や住民代表の参加など、幅広く住民参加を受け止める体制づくりに取り組んでいます。

芸術家・専門家との連携

愛知県立芸術大学や出身の芸術家等と、オペラ声楽コンクールの企画運営、長久手オペラの創造、美術企画展等の提携に取り組んでいます。また、地元の若手芸術家・専門家等を文化の家の創造スタッフとして起用しています。文化の家の企画委員会など、事業の方針決定の場においても芸術家や専門家を交えて検討しており、芸術家・専門家と連携して、さまざまな事業の企画・運営を行っています。

(2) 課題

文化活動をする契機の少ない住民へのきっかけづくり

鑑賞や創造活動に興味はあるが、時間がない、きっかけがない、関心のあることが行われていない、情報がない、といったことが、町民の鑑賞や創作活動に共通した課題としてあがっています。また、文化の家の事業については、敷居が高いと思われやすい傾向にあり、親しみやすい企画、気軽に行ける催し、多様な分野の事業を求める声がみられます。

子ども・若年層の文化活動環境の充実

文化マスタープランに子ども・親子の視点が少なく、文化の家での事業は限定的に実施されてきました。しかし、子ども向け、親子向けの充実を求める町民が多くなっています。また、若年層は特に鑑賞や活動の意向が強く、本町に在住する親世代は転出入が

多く、地域とのつながりが弱いことが課題となっています。これらのことから、子ども・若年層の文化活動環境の充実が必要です。

質の高い芸術事業の継続と、その効果のまち全体への展開

オペラ声楽コンクール、地域演劇祭など、自主創造事業が本町に定着してきています。これらの事業をまち全体で応援する雰囲気づくり、まちのブランドやアイデンティティづくり、町民が関わりを持つ機会の増加など、その効果をまち全体へ広げていく取り組みが必要です。

芸術活動を展開する基盤づくりの支援

本町には芸術系の大学が立地し、名古屋近郊で良好な住宅環境を有することなどから、比較的、たくさんの芸術家が住んでいるまちです。ただし、若手芸術家は大学卒業後の進路の道筋が見えづらく、経済的な基盤も非常に弱いなど、芸術活動を継続することは容易ではありません。行政内においても、芸術家を職業として尊重し、正当な報酬を支払うという意識が十分に浸透していません。

伝統文化を継承する基盤の変容

本町はオマント・警固祭り、棒の手など無形の民俗文化財や伝統芸能が脈々と継承されてきました。しかし、現在都市化の進展や住民意識の変化により、継承の基盤となる地域のコミュニティ活動が弱まりつつあります。

さまざまな連携の促進

文化の家、福祉の家、平成こども塾、公民館、中央図書館、学校等それぞれの公共施設で文化振興が取り組まれています。また、文化協会、観光交流推進会議など各種団体の活動が活発であり、町内外のさまざまな連携を促進することが課題です。

住民参画の拡充

事業倶楽部など住民が自立的に企画する事業が広がりには欠け、文化の家に関わる住民団体や専門家との交流が限られています。文化の家へのさまざまな期待や要望に対応するためには、住民参画を拡充し、住民の自立的な活動を育成する必要があります。